昭和四年十二月三日

日本交通勞働新聞

192

毎月一回發行
編輯發行兼印刷人 伊藤
東京麹町内幸町一ノ三幸ビ
發行所 日本交通勞働總聯
交通勞働新聞
定價 一ケ月 五 錢
廣告料 五號十五字詰一
十錢 紙型割引

電氣局突如として 賞與二割減昇給停止の セイ慘なる大彈壓を下す

東京市電氣局は十二月二日午前十時、突如として、全一萬三千人の頭上に凄慘なる一大彈壓を下した。事件の内容は堀切市長が東京市財政整理を理由に、東京市の祿を喰む者には全部、賞與二割減を實行するに倣つて、電氣局も本年十二月廿一日に支拂ふべき賞與から二割削減を斷行し、更に十二月二日以降に發表すべき昇給者の昇給を無期停止すると發表した。

この前代未聞の突然の飛報が一度本部に傳はるや、緊急の執行部は直に本部執行委員總出動で、本局に押寄せ筧局長に會見し一詰問した所『事實で間違ひでない』といづれ當該所長から從業員に申渡する手筈になつて居る』と放言した。

何たる暴擧か！最早や本部員は、これ以上聞く必要なしとて直に本部に引上げ、緊急執行委員會を開催し、嚴重に對策を協議し、一切の運動方針を明十三月三日午後六時、本郷一丁目佛教青年會館に開催する緊急中央委員會に一任する事にして散會し各自慘たる決意を眉字に示しつゝ職場へ飛んで歸つた

一、こんどこそ生ぬるい運動では駄目だ！
一、今まで我慢してゐた一切の迫害を奪還しろ
一、賞與二割削減、昇給無期停止絶對反對だ！

眞相を極むべく 直ちに局長を詰問す

—本部員總動員で—

兼ねてより堀切市長が東京市財政整理に當り、所謂六百三十三萬圓の増税案が市參事會及び市會方面にて通過しそうもないので、先づ東京市吏員の賞與二割減、馘首しない程度の自然淘汰で人件費二分減を發表して逃さながら、今度突如として從業員にも及ぼすことを發表した。此の際耳に水の飛報に、本部員は直に勞働課長を訪問した所、要領を得ないので、筧局長室に於て

局側、筧局長、山下理事、筒井勞働課長、守屋庶務課長
組合側、柳澤、山下、河野、井淵、中村、小宮、伊藤誠、篠田、神原等が會見し詰問する所あつた。

組合側『本日局長が各課の所長や主任を集めて、全從業員の賞與二割減、昇給無期延期を發表したそうだが事實か。

局長『事實である。堀切市長が東京市に從事する者には一人殘れなく實行すると云ふので電氣局でもその方針に從つた

組合側『賞與二割減は本年

月分から實行するのか。

局長『本年十二月廿一日に支給する賞與から二割削減する

組合側『昇給無期延期はい

から實行するか

局長『本月の十二月二日以降に發表すべき昇給者から停止す例へ締切つてある者でも未だ發表されてない者も停止する

組合側『賞與二割削減・昇給無期停止は、いつ頃復活する者へか

局長『東京市の財政と電氣局の財政が整備されれば復活するだらうと思ふが今の所明言出來ない。

組合側『從業員の賞與二割減及び昇給停止でどの位餘剩金が出來るか

庶務課長『賞與が一ケ年約五十萬圓浮く、昇給停止で一年約二十萬圓合計七十萬圓浮くと思ふ

局長『是非一つ我慢して承知して貰ひたい。

こんな木つ端で鼻をくゝつた